

# まちがいさがしにチャレンジ!

こたえは図書室前の掲示コーナーに貼りだします。

今回は  
4コマが  
間に合います...



## 『モモ』

ミヒヤエル・エンテ

円形劇場の遺跡に住み着いたもじやもしやの髪に輝きはぎだらけの服を着た風変わりな少女モモ。彼女に話を聞いてもらおうと、語り手はなぜか気持ちが明るくなり、良い考えが浮かびます。モモは町の人々と楽しく生活していましたが、ある時、全身灰色すくめの男たちが現れます。彼らは時間を「時間貯蓄銀行」に預ければ効率的な生活ができると言葉巧みに持ちかけます。自由な時間を奪われてしまった人々を救うために、モモの

冒険が始まります。私たちに「時間とは何か」を問いかける、現代社会への批判も込めたファンタジー童話です。

ミヒヤエル・エンテ(一九二九〜一九九五年)はドイツの児童文学作家です。『ジムボタンの機関車大旅行』でデビューし、代表作に『はてしない物語』などがあります。画家の父を持ち、『モモ』の挿絵も自ら手がけています。翻訳を担当した日本人女性とのちに結婚するなど、日本と縁が深く、長野県にある黒姫童話館にはエンテに関する多くの資料が展示されています。

※『モモ』は児童書用から刊行されています。

## 『枕草子』

清少納言

第一段の「春は、あけぼの。」が有名な『枕草子』。著者の清少納言(生没年未詳)は平安時代の歌人、随筆家で、一条天皇の中宮定子に仕えていました。学才を定子に愛され、この随筆を書くことを促されたといわれています。枕草子では、当時の華やかな宮中生活と移ろいゆく季節を生きる人間の心模様などが、清少納言独特の鋭くユニークな視点で描かれています。

「職の御書司におはしますころ、西の廂にて」で始まる話は、寒

さ深まる一二月半ばの出来事。大雪が降った後、定子の仰せで屋敷の庭に大きな雪山が作られました。定子と女房たちの間でいつまで雪が解けずに残るか、賭けが行われ、みんなは一日あまりと答える中、清少納言だけは一月一五日までと答えます。

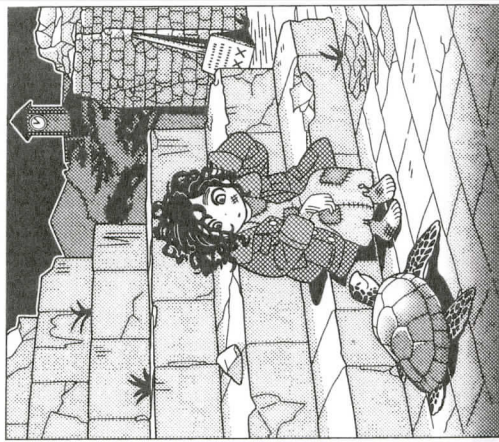
予想の日までに雪山が解けないかどうかやきもきして、庭番に見張らせる清少納言の負けず嫌いな性格がうかがえます。また、賭けをめぐる意外な結果がおもしろいです。古典と構えずに読んでみると、共感するところが多く見つかるでしょう。

※『枕草子』は、若菜書店、新潮社、角川書店などから発行されています。

時間を奪う灰色の男たちの恐ろしいたくらみを止めようとモモは奔走しますが、うまくいきません。落ち込む彼女の前に一匹の亀が突然現れます。その甲羅には不思議な文字が浮かび上がってきて……。

下の2枚の絵の違いを5か所見つけてください。

## 名作 まちがいさがし



## 名作 まちがいさがし

中宮定子の仰せで、屋敷の庭に大きな雪山を作ることになりました。警護の侍や屋敷に仕える職員だけではなく、番の者まで駆り出されることに。大人敷で作業が行われ、すばらしい雪山が作り上げられたのでした。

下の2枚の絵の違いを5か所見つけてください。

